

# 在宅看護論

# 在宅看護論

目標Ⅰ. 在宅看護の特徴、在宅療養者及び家族について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
1 在宅看護が必要とされる背景と根拠	A 社会的背景	a 人口構成の変化	在宅看護論：第1章A「在宅看護の目ざすもの」(p.4～5)、B-1「超高齢化社会の進展と地域連携システム」(p.11～12)、第2章A-1「年齢からみた対象者の特徴」(p.21)、在宅看護論：付章D「保健・医療・福祉の動向と訪問看護の歴史」(p.388～393) 社会保障・社会福祉：第2章A-1「人口の変化」(p.30～35)
		b 国民の価値観	在宅看護論：第1章A「在宅看護の目ざすもの」(p.4～10)、第4章A-1「対象者の生活と価値観の多様性の尊重」(p.66～67)
		c 療養の場	在宅看護論：第1章A「在宅看護の目ざすもの」(p.4～10)
		d 社会保障費(医療費・介護費)	在宅看護論：付章D「保健・医療・福祉の動向と訪問看護の歴史」(p.388～393) 社会保障・社会福祉：第1章A-6「社会保障給付費」(p.10～11)、第4章A-3「介護保険制度の実施状況とその後の制度改正」(p.90～93)
	B 在宅医療・介護と制度	a 在宅医療・介護に関する仕組み	在宅看護論：第3章A「在宅看護のしくみ」(p.40～58)
		b 疾病や障害を抱えた人の社会参加	在宅看護論：第1章A「在宅看護の目ざすもの」(p.4～10)、第2章「在宅看護の対象者」(p.20～31)
2 在宅看護の対象と生活	A 在宅看護の対象者	a 疾病をもつ人と家族	基礎看護学 [4] (臨床看護総論)：第1章C-3-1「在宅における対象者と家族の健康上のニーズ」(p.51～52) 在宅看護論：第2章「在宅看護の対象者」(p.20～37)
		b 障害をもつ人と家族	基礎看護学 [4] (臨床看護総論)：第1章C-3-1「在宅における対象者と家族の健康上のニーズ」(p.51～52) 在宅看護論：第2章「在宅看護の対象者」(p.20～37)
	B 対象者の生活	a 生活の場の種類	在宅看護論：第1章A「在宅看護の目ざすもの」(p.4～10)
		b 生活様式と価値観	在宅看護論：第1章A「在宅看護の目ざすもの」(p.4～10)、第4章A-1「対象者の生活と価値観の多様性の尊重」(p.66～67)
	C 在宅看護の提供方法	a 外来看護	在宅看護論：第1章A-4「あらゆる面からQOLを考える」(p.8～10)、B-2-4「医療提供の場と医療内容の検討」(p.14～15)
		b 訪問看護	在宅看護論：第1章B-2-4「医療提供の場と医療内容の検討」(p.14～15)、第3章A-4「訪問看護制度」(p.50～58)
c 入所施設での看護		在宅看護論：第3章A-3「介護保険制度」(p.44～50)	
d 通所施設での看護		在宅看護論：第3章A-3「介護保険制度」(p.44～50)	
3 在宅看護の目的	A 自立・自律支援とQOL向上のための支援	a QOLの理解	在宅看護論：第1章A「在宅看護の目ざすもの」(p.4～10)
		b セルフケア	在宅看護論：第1章A「在宅看護の目ざすもの」(p.4～10)、B-2「医療ニーズに応じた継続的な医療の提供と看護師の役割」(p.12～16)、第5章A「在宅で看護を展開するにあたって」(p.136～140)、H「独居の療養者に対する在宅看護の事例展開」(p.344～353)
		c 社会参加への援助	在宅看護論：第1章A「在宅看護の目ざすもの」(p.4～10)、B-2「医療ニーズに応じた継続的な医療の提供と看護師の役割」(p.12～16)、第5章A「在宅で看護を展開するにあたって」(p.136～140)、H「独居の療養者に対する在宅看護の事例展開」(p.344～353)
	B 病状・病態の予測と予防	a ヘルスアセスメント	老年看護 病態・疾患論：第3章K「在宅でのフィジカルアセスメント」(p.112～115)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		b 病状経過の予測	在宅看護論：第4章 B-2-1「基本的情報収集項目とアセスメント」(p.71～76)
		c 在宅での感染予防対策	在宅看護論：第4章 A-3「時間的な広がりへの着目」(p.68)、B「在宅看護過程の展開方法」(p.70～92) 在宅看護論：第4章 D-2-5「感染症のリスク防止」(p.108)、D-3「感染防止」(p.109～112)
4 在宅看護の役割と機能	A 生活の中で必要となる安全管理	a 家屋環境の整備	在宅看護論：第4章 D-4「療養生活上の安全の確保」(p.112～115)、第5章 B-4「移動・移乗に関する在宅看護技術」(p.160～170)
		b 転倒・転落の防止	老年看護 病態・疾患論：第2章 C-1「転倒・骨折」(p.63～67) 在宅看護論：第4章 D-2-3「転倒事故の防止」(p.106～107)、D-4-1「転倒予防に関する教育と環境整備」(p.112～113)
		c 誤嚥・窒息の防止	在宅看護論：第4章 D-4-2「窒息の予防」(p.114)、第5章 B-2「食生活・嚥下に関する在宅看護術」(p.147～155) 看護の統合と実践 [2] (医療安全)：第4章 C「誤嚥事故防止」(p.168～174)
		d 熱傷・凍傷の防止	在宅看護論：第4章 D-2-4「身体損傷の防止」(p.108)、D-4-3「火災の予防」(p.114～115)
		e 熱中症の防止	老年看護 病態・疾患論：第2章 A-3「熱中症」(p.43～44) 在宅看護論：第4章 B-2-4「住環境に関するアセスメント」(p.77～80)
		f 閉じこもりの防止	在宅看護論：第1章 A-4「あらゆる面からQOLを考える」(p.8～10)、第5章 A「在宅で看護を展開するにあたって」(p.136～140)、B-4「移動・移乗に関する在宅看護技術」(p.160～170)、第6章 D「認知症の療養者に対する在宅看護の事例展開」(p.293～302)
		g 独居高齢者等と火災予防	在宅看護論：第4章 D-4-3「火災の予防」(p.114～115)、H「独居の療養者に対する在宅看護の事例展開」(p.344～353)
	B 家族への支援	a 家族のアセスメント	老年看護学：第7章 C-2「介護家族への看護」(p.364～368) 在宅看護論：第4章 B-2-6「家族の介護力に対するアセスメント」(p.82～87) 家族論・家族関係論：第5章「患者家族と在宅ケア」(p.138～166)
		b 家族関係の調整	在宅看護論：第2章 B「家族」(p.31～37) 家族論・家族関係論：第5章「患者家族と在宅ケア」(p.138～166)
		c ケア方法の指導	在宅看護論：第2章 B「家族」(p.31～37)
		d 介護者の健康	在宅看護論：第2章 B「家族」(p.31～37)、第4章 B-2-6「家族の介護力に対するアセスメント」(p.82～87) 家族論・家族関係論：第5章 D「患者家族への看護ケア」(p.160～166)
		e レスパイトケア	在宅看護論：第2章 B「家族」(p.31～37)、第4章 B-2-6「家族の介護力に対するアセスメント」(p.82～87)、第6章 F「ALSで人工呼吸療法を実施する療養者の在宅看護の事例展開」(p.317～330)
	C 療養の場の移行に伴う看護	a 入退院に関する患者・家族の意思決定支援	在宅看護論：第1章 B-2「医療ニーズに応じた継続的な医療の提供と看護師の役割」(p.12～16)、第4章 A-2「環境や家族への視点」(p.67)、C-6「入退院時における医療機関と訪問看護の連携」(p.97～102)、第6章 A-1「退院前(在宅療養準備期)」(p.264～267)、E「小児の療養者に対する在宅看護の事例展開」(p.303～316)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		b 退院支援・退院調整のプロセス、仕組み	在宅看護論：第1章 B-2「医療ニーズに応じた継続的な医療の提供と看護師の役割」(p.12~16)、第4章 A-2「環境や家族への視点」(p.67)、C-6「入退院時における医療機関と訪問看護の連携」(p.97~102)、第6章 A-1「退院前(在宅療養準備期)」(p.264~267)、E「小児の療養者に対する在宅看護の事例展開」(p.303~316)
		c 退院調整にかかわる職種とその役割	在宅看護論：第4章 C-6「入退院時における医療機関と訪問看護の連携」(p.97~102)、第6章 A-1「退院前(在宅療養準備期)」(p.264~267)、E「小児の療養者に対する在宅看護の事例展開」(p.303~316)
		d 入退所に関する患者・家族の意思決定支援・調整	在宅看護論：第1章 B-2「医療ニーズに応じた継続的な医療の提供と看護師の役割」(p.12~16)、第4章 A-2「環境や家族への視点」(p.67)、C-6「入退院時における医療機関と訪問看護の連携」(p.97~102)、第6章 A-1「退院前(在宅療養準備期)」(p.264~267)、E「小児の療養者に対する在宅看護の事例展開」(p.303~316)
	D 医療機関との連携	a 地域連携バスの理解	在宅看護論：第1章 B-2「医療ニーズに応じた継続的な医療の提供と看護師の役割」(p.12~16)、第4章 C-6「入退院時における医療機関と訪問看護の連携」(p.97~102)、第6章 A-1「退院前(在宅療養準備期)」(p.264~267)、E「小児の療養者に対する在宅看護の事例展開」(p.303~316)
		b 外来・地域連携部門との看看連携	在宅看護論：第1章 B-2「医療ニーズに応じた継続的な医療の提供と看護師の役割」(p.12~16)、第4章 C「他職種との連携」(p.93~102)
		c 他職種との連携・協働	老年看護 病態・疾患論：終章「高齢者の在宅医療とエンドオブライフケア」(p.290~298) 在宅看護論：第1章 B-2「医療ニーズに応じた継続的な医療の提供と看護師の役割」(p.12~16)、第4章 C「他職種との連携」(p.93~102)
	E 在宅におけるチームケア	a 地域包括ケア	在宅看護論：第3章 A-3-4「地域包括ケアシステム」(p.47~50) 公衆衛生：第7章 C-6「地域の特定に応じた地域包括ケアシステム」(p.197~200)
		b チームケアの意義	在宅看護論：第1章 B-2「医療ニーズに応じた継続的な医療の提供と看護師の役割」(p.12~16)、第4章 C-1「在宅における連携の特徴」(p.93~94)、付章 B-3「訪問看護師とケアチーム」(p.383~384)
		c 多職種との連携・協働	在宅看護論：第1章 B-2「医療ニーズに応じた継続的な医療の提供と看護師の役割」(p.12~16)、第4章 C「他職種との連携」(p.93~102) 社会保障・社会福祉：第8章 H-3「地域ケアシステムにおける他機関との連携」(p.256~257)
		d チームケアの実際	在宅看護論：第1章 B-2「医療ニーズに応じた継続的な医療の提供と看護師の役割」(p.12~16)、第4章 C「他職種との連携」(p.93~102)、第6章 B「脳卒中をおこした患者の在宅療養導入の事例展開」(p.272~284)、E「小児の療養者に対する在宅看護の事例展開」(p.303~316)
		e チームケアにおける看護の役割	在宅看護論：第1章 B-2「医療ニーズに応じた継続的な医療の提供と看護師の役割」(p.12~16)、第4章 C「他職種との連携」(p.93~102)、第6章 B「脳卒中をおこした患者の在宅療養導入の事例展開」(p.272~284)、E「小児の療養者に対する在宅看護の事例展開」(p.303~316)、付章 B-3「訪問看護師とケアチーム」(p.383~384)
	F ケアマネジメント・ケースマネジメント	a ケアマネジメント・ケースマネジメントの概念	成人看護学 [1] (成人看護学総論)：第3章 E-3「ケアマネジメント」(p.119~120)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		b ケアマネジメント・ケースマネジメントの過程	在宅看護論：第3章 A-2-1「ケアマネジメントの概念」(p.42) 在宅看護論：第3章 A-2「ケアマネジメントの概念と機能」(p.42~44)、A-3「介護保険制度」(p.44~50)、第6章 B「脳卒中をおこした患者の在宅療養導入の事例展開」(p.272~284)、G「COPDの療養者に対する在宅看護の事例展開」(p.331~343)
		c ケアマネジメント・ケースマネジメントの実際	在宅看護論：第3章 A-2「ケアマネジメントの概念と機能」(p.42~44)、A-3「介護保険制度」(p.44~50)、第6章 B「脳卒中をおこした患者の在宅療養導入の事例展開」(p.272~284)、G「COPDの療養者に対する在宅看護の事例展開」(p.331~343)
		d 社会資源の理解と活用	成人看護学 [1] (成人看護学総論)：第3章 E-3「ケアマネジメント」(p.119~120) 在宅看護論：第3章 A-2「ケアマネジメントの概念と機能」(p.42~44)、A-3「介護保険制度」(p.44~50)、第4章 B-2-5「社会資源に対するアセスメント」(p.80~82)、C-3「介護保険の社会資源との連携」(p.96)、C-4「その他の社会資源との連携」(p.96)、第6章 B「脳卒中をおこした患者の在宅療養導入の事例展開」(p.272~284)、E「小児の療養者に対する在宅看護の事例展開」(p.303~316)
	G 在宅看護における倫理的課題	a 自己決定支援	在宅看護論：第3章 A-2-2「ケアマネジメントの機能」(p.42~43)、第4章 E-2「自己決定権」(p.120)、付章 B-1-3「インフォームド・コンセントと自己決定の支援」(p.381)
		b 対象者の権利擁護〈アドボカシー〉(成年後見制度)	在宅看護論：第4章 E「対象者(家族も含む)の権利保障」(p.120~129)、付章 B-1「在宅看護の対象者の権利」(p.381~382)
		c サービス提供者の権利擁護	在宅看護論：第3章 A-4「訪問看護制度」(p.50~58)、付章 B-2-2「在宅看護の持つ自律性」(p.382)、付章 C「関係法令」(p.384~388)
		d 虐待の防止	在宅看護論：第4章 E-6「虐待」(p.125~126)
		e 情報管理	在宅看護論：第4章 E-3「個人情報の保護」(p.121~122)、E-4「個人情報等の情報の開示」、付章 B-1「在宅看護の対象者の権利」(p.381~382)

## 目標Ⅱ. 在宅における看護について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
5 訪問看護の概要	A 訪問看護制度の理解	a 訪問看護の変遷	老年看護学：第7章 A-2-2「介護・医療ニーズの高い在宅高齢者への看護」(p.340~343) 在宅看護論：第3章 A-1「訪問看護制度の創設と発展経緯」(p.40~42)、付章 D「保健・医療・福祉の動向と訪問看護の歴史」(p.388~393)
		b 訪問看護の提供方法と種類	在宅看護論：第3章 A-4「訪問看護制度」(p.50~58)
		c 訪問看護制度の課題	在宅看護論：第1章 A「在宅看護の目ざすもの」(p.4~10)、第3章 A-3「訪問看護制度」(p.50~58)
	B 訪問看護制度の法的枠組み	a 健康保険法	在宅看護論：第3章 A-4「訪問看護制度」(p.50~58)、付章 C-2「訪問看護に関係する法令」(p.385~388) 看護関係法令：第7章 A-1「健康保険法」(p.201~205)
		b 介護保険法	老年看護学：第2章 B-2-2「介護保険制度の整備」(p.39~50) 在宅看護論：第3章 A「在宅看護のしくみ」(p.40~58)、付章 C-2-4「介護保険法」(p.386) 看護関係法令：第7章 A-6「介護保険法」(p.209~216)
		c 障害者総合支援法(旧障害者自立支援法)	在宅看護論：第6章 E「小児の療養者に対する在宅看護の事例展開」(p.303~316)、付章 C-2-5「公費負担医療」(p.387)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		d 高齢者の医療の関係法規	看護関係法令：第8章 D-2「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」(p.235～238) 在宅看護論：第3章 A-1「訪問看護制度の創設と発展経緯」(p.40～42)、A-4「訪問看護制度」(p.50～58)、付章 C-2「訪問看護に関係する法令」(p.385～388)
		e その他の関係法規	看護関係法令：第7章 A-3「高齢者の医療の確保に関する法律」(p.207～209) 在宅看護論：第3章 A-4「訪問看護制度」(p.50～58)、付章 C「関係法令」(p.384～388)、D「保健・医療・福祉の動向と訪問看護の歴史」(p.388～393)
	C 訪問看護サービスの仕組みと提供	a 訪問看護ステーションの開設基準	在宅看護論：第3章 A-4-2「訪問看護ステーションに関する規程」(p.52～55)、付章 C-2「訪問看護に関係する法令」(p.385～388)
		b 訪問看護サービス開始までの流れ	在宅看護論：第3章 A「在宅看護のしくみ」(p.40～58)
		c 訪問看護サービスの展開	在宅看護論：第3章 A「在宅看護のしくみ」(p.40～58)、第4章「在宅看護の展開」(p.66～129)
		d 訪問看護サービスの質保証	在宅看護論：第3章 A「在宅看護のしくみ」(p.40～58)
		e 訪問看護サービスの管理・経営	在宅看護論：第3章 A-4「訪問看護制度」(p.50～58)、付章 C-2「訪問看護に関係する法令」(p.385～388)
6 生活を支える在宅看護技術	A 食事・栄養の援助	a 食事摂取能力のアセスメント	在宅看護論：第5章 B-2-2「食生活・嚥下に関するアセスメント」(p.149～151) 栄養学：第9章 G-3「高齢者の在宅療養における栄養管理」(p.238～239) 臨外看総：第9章 F「在宅療養者への支援」(p.374～380)
		b 摂食・嚥下能力障害時のアセスメント	老年看護 病態・疾患論：第2章 C-4「嚥下障害」(p.73～77) 在宅看護論：第5章 B-2-2「食生活・嚥下に関するアセスメント」(p.149～151)
		c 嚥下障害時の援助	老年看護 病態・疾患論：第2章 C-4「嚥下障害」(p.73～77) 在宅看護論：第5章 B-2-3「食生活・嚥下への介助のポイント」(p.152～155) 栄養学：第9章 F-8「咀嚼・嚥下障害患者の食事療法」(p.230～231)
		d 口腔ケア	栄養食事療法：第3章 F「摂食・嚥下障害」(p.40～43) 成人看護学 [15] (歯・口腔)：特論「口腔ケア」(p.277～279) 老年看護 病態・疾患論：第4章 M-2「口腔ケア」(p.251～254) 在宅看護論：第5章 B-2-3「食生活・嚥下への介助のポイント」(p.152～155)
		e 食事内容の選択、食材の調達の方法に関する援助	在宅看護論：第5章 B-2-3「食生活・嚥下への介助のポイント」(p.152～155) 栄養学：第9章 G-3「高齢者の在宅療養における栄養管理」(p.238～239) 栄養食事療法：第2章 A「病人食の分類と特徴」(p.14～23)
		f 栄養を補う食品の種類と選択方法に関する援助	在宅看護論：第5章 B-2-3「食生活・嚥下への介助のポイント」(p.152～155) 栄養学：第5章 C-19「特別用途食品」(p.103～104)、第9章 G-3「高齢者の在宅療養における栄養管理」(p.238～239) 栄養食事療法：第2章「栄養食事療法の実際」(p.14～30)
	B 排泄の援助	a 排泄障害のアセスメント	老年看護 病態・疾患論：第2章 C-2「排尿障害(尿失禁)」(p.51～54)



大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		b 排泄補助用具の種類と選択方法	在宅看護論：第5章 B-3-2「排泄にかかわる環境と介護力のアセスメント」(p.156)、B-3-3「排尿のアセスメント」(p.156~158)、B-3-5「排便のアセスメント」(p.159)
		c 尿失禁の予防と援助	在宅看護論：第5章 B-3-4「尿失禁の予防と工夫」(p.158~159)、B-3-6「便秘・便失禁の予防と工夫」(p.160)
		d 便失禁への援助	老年看護 病態・疾患論：第2章 C-2「排尿障害(尿失禁)」(p.67~71)
		e 便秘の予防と援助	在宅看護論：第5章 B-3-4「尿失禁の予防と工夫」(p.158~159)
		f ストーマケア	在宅看護論：第5章 B-3-6「便秘・便失禁の予防と工夫」(p.160)
			第6章 C「パーキンソン病の療養者に対する在宅看護の事例展開」(p.285~292)
			在宅看護論：第5章 C-3「ストーマ(人工肛門・人工膀胱)」(p.206~214)
	C 清潔の援助	a 清潔のアセスメント	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第6章 A「清潔の援助」(p.145~192)
		b 在宅での清潔方法の種類と方法	在宅看護論：第5章 B-5-2「清潔に関するアセスメント」(p.171~172)
	D 移動の援助	a 日常生活動作〈ADL〉・手段的日常生活動作〈IADL〉のアセスメント	在宅看護論：第5章 B-5-3「在宅における清潔の介助に関するポイント」(p.173~176)
		b 移動時の安全確保	在宅看護論：第4章 B-2-1「基本的情報収集項目とアセスメント」(p.71~75)、第5章 B-4-2「移動・移乗のアセスメント」(p.162~164)
		c 移動補助用具の種類と選択方法	在宅看護論：第5章 B-4「移動・移乗に関する在宅看護技術」(p.160~170)
		d 自立歩行に必要な筋力評価と強化方法	在宅看護論：第5章 B-4「移動・移乗に関する在宅看護技術」(p.160~170)
7 在宅療養者の状態・状況にあわせた看護	A 日常生活活動の低下予防および疾病の再発予防が必要な療養者	a 状態のアセスメントと環境整備	在宅看護論：第2章 A-3「障害からみた対象者の特徴」(p.23~27)、A-4「在宅療養状態別にみた対象者の特徴」(p.27~31)、第4章 A「在宅看護過程展開のポイント」(p.66~70)、B「在宅看護過程の展開方法」(p.70~93)、第5章 A「在宅で看護を展開するにあたって」(p.136~140)
		b 療養者・家族のセルフマネジメント力を維持・高める支援	在宅看護論：第1章 A-4「あらゆる面からQOLを考える」(p.8~10)、第2章 B-1-2「家族の受けとめへの支援」(p.32)、第5章「在宅看護技術」(p.136~259)
		c 異常の早期発見と対応	在宅看護論：第4章 B「在宅看護過程の展開方法」(p.70~93)、第5章「在宅看護技術」(p.136~259)
		d 社会資源の活用・調整	在宅看護論：第3章 A-2「ケアマネジメントの概念と機能」(p.42~44)、A-3「介護保険制度」(p.44~50)、第4章 B-2-5「社会資源に対するアセスメント」(p.80~82)、C-3「介護保険の社会資源との連携」(p.96)、C-4「その他の社会資源との連携」(p.96)、第6章 B「脳卒中をおこした患者の在宅療養導入の事例展開」(p.272~284)、E「小児の療養者に対する在宅看護の事例展開」(p.303~316)
	B 回復期(リハビリテーション期)にある療養者	a 在宅リハビリテーション	在宅看護論：第2章 A-3-2「介護サービスの利用」(p.45~49)、A-4「在宅療養状態別にみた対象者の特徴」(p.27~30)、第5章 B-4-3「在宅における移動・移乗の介助に関するポイント」(p.164~170)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		b 機能障害と在宅での生活のアセスメント	在宅看護論：第2章 A-3「障害からみた対象者の特徴」(p.23~27)、A-4「在宅療養状態別にみた対象者の特徴」(p.27~31)、第4章 A「在宅看護過程展開のポイント」(p.66~70)、B「在宅看護過程の展開方法」(p.70~93)、第5章 A「在宅で看護を展開するにあたって」(p.136~140)
		c 合併症の予防と対応	在宅看護論：第4章 B「在宅看護過程の展開方法」(p.70~93)、第5章「在宅看護技術」(p.136~259)
		d 居住環境のアセスメント	在宅看護論：第4章 B-2-4「住環境に関するアセスメント」(p.77~80)
		e 社会資源の活用・調整	在宅看護論：第3章 A-2「ケアマネジメントの概念と機能」(p.42~44)、A-3「介護保険制度」(p.44~50)、第4章 B-2-5「社会資源に対するアセスメント」(p.80~82)、C-3「介護保険の社会資源との連携」(p.96)、C-4「その他の社会資源との連携」(p.96)、第6章 B「脳卒中をおこした患者の在宅療養導入の事例展開」(p.272~284)、E「小児の療養者に対する在宅看護の事例展開」(p.303~316)
	C 慢性期にある療養者(難病、認知症)	a 状態のアセスメントと状態に合わせた対応・調整	成人看護学 [7] (脳・神経)：第6章 A-5-2「在宅療養に対する援助」(p.238~239)、B-3「認知症患者の看護」(p.253~258) 在宅看護論：第2章 A-4-3「慢性的な療養状態の継続支援、症状コントロールの必要な状態」(p.29~30)、第4章 B-2「情報収集とアセスメント」、第5章「在宅看護技術」(p.136~259)、第6章 D「認知症の療養者に対する在宅看護の事例展開」(p.293~302)
		b 難病療養者・家族のセルフマネジメント力を高める支援	在宅看護論：第2章 A-4-3「慢性的な療養状態の継続支援、症状コントロールの必要な状態」(p.29~30)、第4章 B「在宅看護過程の展開方法」(p.70~93)、第5章「在宅看護技術」(p.136~259)、第6章 C「パーキンソン病の療養者に対する在宅看護の事例展開」(p.285~292)、F「ALSで人工呼吸療法を実施する療養者の在宅看護の事例展開」(p.317~330)
		c 急性増悪の早期発見と対応	在宅看護論：第4章 B「在宅看護過程の展開方法」(p.70~93)、第5章「在宅看護技術」(p.136~259)
		d 社会資源の活用・調整	在宅看護論：第3章 A-2「ケアマネジメントの概念と機能」(p.42~44)、A-3「介護保険制度」(p.44~50)、第4章 B-2-5「社会資源に対するアセスメント」(p.80~82)、C-3「介護保険の社会資源との連携」(p.96)、C-4「その他の社会資源との連携」(p.96)、第6章 C「パーキンソン病の療養者に対する在宅看護の事例展開」(p.285~292)、F「ALSで人工呼吸療法を実施する療養者の在宅看護の事例展開」(p.317~330)
	D 終末期にある療養者	a 症状マネジメント	在宅看護論：第2章 A-4-4「終末期ケアの必要な状態」(p.30)、第5章 B-7「在宅における終末期看護」(p.183~191)、C-9「疼痛緩和」(p.252~259)、第6章 I「終末期(がん)の療養者に対する在宅看護の事例展開」(p.354~361) 緩和ケア：第7章 B「主要な身体症状のマネジメントとケア」(p.128~193)
		b 終末期緩和ケアの実際	在宅看護論：第5章 B-7「在宅における終末期看護」(p.183~191)、C-9「疼痛緩和」(p.252~259)、第6章 I「終末期(がん)の療養者に対する在宅看護の事例展開」(p.354~361)
		c 看取りの看護	在宅看護論：第5章 B-7「在宅における終末期看護」(p.183~191)、第6章 I「終末期(がん)の療養者に対する在宅看護の事例展開」(p.354~361)



大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		d 家族へのグリーフケア	在宅看護論：第2章 A-4-4「終末期ケアの必要な状態」(p.30)、第5章 B-7「在宅における終末期看護」(p.183~191)、第6章 I「終末期(がん)の療養者に対する在宅看護の事例展開」(p.354~361) 人間関係論：第8章 D「死別後の悲嘆プロセスを支える」(p.179~183) 緩和ケア：第11章 D「遺族ケア」(p.286~290)
8 在宅における医療管理を必要とする人と看護	A 薬物療法	a 服薬状況の把握	在宅看護論：第3章 A-3-3「訪問看護の内容」(p.55)、第4章 D-2-2「薬物による医療事故防止」(p.104~105)、第6章 J「統合失調症の療養者に対する在宅看護の事例展開」(p.363~373) 薬理学：第1部 第1章 B-2-4「服薬に関する患者指導」(p.12)
		b 医師および薬剤師との連携	在宅看護論：第4章 C「他職種との連携」(p.93~102)
		c 外来通院中の在宅療養者に対するケア(麻薬投与・外来化学療法)	基礎看護学 [4] (臨床看護総論)：第4章 B-2「化学療法を受ける患者・家族への看護援助」(p.263~268) 在宅看護論：第5章 C-9「疼痛管理」(p.252~259)
		d 放射線治療・検査に関するケア	基礎看護学 [4] (臨床看護総論)：第4章 C-2「放射線療法を受ける患者・家族への看護援助」(p.275~278) 在宅看護論：第5章 B-7「在宅における終末期看護」(p.183~191)
	B 酸素療法	a 対象者	成人看護学 [2] (呼吸器)：第4章 C-2-3「在宅酸素療法」(p.113~114)、第6章 D-2-2「在宅酸素療法」(p.252~254) 在宅看護論：第5章 C-7「在宅酸素療法(HOT)」(p.237~242) 臨外看総：第2章 B-3-1「在宅酸素療法」(p.89~90)、第9章 F-2-3「在宅酸素療法」(p.378)
		b 機器の種類	成人看護学 [2] (呼吸器)：第4章 C-2-3「在宅酸素療法」(p.113~114)、第6章 D-2-2「在宅酸素療法」(p.252~254) 在宅看護論：第5章 C-7「在宅酸素療法(HOT)」(p.237~242)
		c 合併症の予防	在宅看護論：第5章 C-7「在宅酸素療法(HOT)」(p.237~242)
		d 在宅における安全管理と支援	成人看護学 [2] (呼吸器)：第4章 C-2-3「在宅酸素療法」(p.113~114)、第6章 D-2-2「在宅酸素療法」(p.252~254) 在宅看護論：第5章 C-7「在宅酸素療法(HOT)」(p.237~242) 臨外看総：第2章 B-1-3「酸素療法の目的と方法」(p.82~85)
	C 人工呼吸療法(非侵襲的換気療法)	a 対象者	成人看護学 [2] (呼吸器)：第4章 C-3「人工呼吸療法」(p.114~119)、第6章 D-3「人工呼吸器を装着する患者の看護」(p.254~269) 在宅看護論：第5章 C-6「非侵襲的陽圧換気療法(NPPV)」(p.232~237)、C-8「在宅人工呼吸療法(HMV)と排痰法」(p.242~252) 臨外看総：第2章 B-2-1「人工呼吸の目的と適応」(p.85~86)、3-2「在宅人工呼吸療法」(p.90)
		b 人工呼吸器の原理・構造	成人看護学 [2] (呼吸器)：第4章 C-3「人工呼吸療法」(p.114~119)、第6章 D-3「人工呼吸器を装着する患者の看護」(p.254~269) 在宅看護論：第5章 C-8「在宅人工呼吸療法(HMV)と排痰法」(p.242~252) 臨外看総：第2章 B-2-2「人工呼吸器」(p.86~88)
		c 気道浄化のケア	成人看護学 [2] (呼吸器)：第4章 C-3「人工呼吸療法」(p.114~119)、第6章 D-3「人工呼吸器を装着する患者の看護」(p.254~269)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		d 合併症の予防	在宅看護論：第5章 C-8 「在宅人工呼吸療法(HMV)と排痰法」(p.242～252)
		e 在宅における安全管理と支援	在宅看護論：第5章 C-6 「非侵襲的陽圧換気療法(NPPV)」(p.232～237)、C-8 「在宅人工呼吸療法(HMV)と排痰法」(p.242～252) 臨外看総：第2章 B-1-4 「酸素療法の合併症」(p.85) 成人看護学 [2] (呼吸器)：第4章 C-3 「人工呼吸療法」(p.114～119)、第6章 D-3 「人工呼吸器を装着する患者の看護」(p.254～269) 在宅看護論：第5章 C-6 「非侵襲的陽圧換気療法(NPPV)」(p.232～237)、C-8 「在宅人工呼吸療法(HMV)と排痰法」(p.242～252)
	D 膀胱留置カテーテル法	a 対象者	在宅看護論：第5章 C-2-2 「尿道留置カテーテルの適応条件」(p.200)
		b 合併症の予防	在宅看護論：第5章 C-2-5 「合併症とその対処方法」(p.202)
		c 在宅における安全管理と支援	在宅看護論：第5章 C-2 「尿道留置カテーテル」(p.200～206)
	E 胃瘻・経管栄養法	a 対象者	成人看護学 [5] (消化器)：第6章 D-3 「栄養療法・食事療法を受ける患者の看護」(p.311～319)、D-5 「胃瘻・空腸瘻造設患者の看護」(p.329～332) 在宅看護論：第5章 C-4-2 「経管栄養の種類と適応」(p.215) 栄養学：第9章 B-1 「経腸栄養法」(p.187～188) 在宅看護論：第5章 C-4 「経管栄養」(p.179～186) 栄養学：第9章 D 「経腸栄養製品」(p.198～203) 臨外看総：第2章 C-2-3 「経腸栄養剤の種類」(p.102～103) 栄養食事療法：第2章 B-2 「経管・経腸栄養法」(p.24～26)
		b 栄養剤の種類と特徴	在宅看護論：第5章 C-4 「経管栄養」(p.214～226) 栄養学：第7章 「栄養状態の評価・判定」(p.128～146) 栄養食事療法：第2章 C 「栄養アセスメントの基本」(p.26～30)
		c 栄養評価	成人看護学 [5] (消化器)：第6章 D-3 「栄養療法・食事療法を受ける患者の看護」(p.311～319)、D-5 「胃瘻・空腸瘻造設患者の看護」(p.329～332) 在宅看護論：第5章 C-4 「経管栄養」(p.214～226) 栄養学：第9章 D-5 「経腸栄養の合併症」(p.202～203)
		d 合併症の予防	成人看護学 [5] (消化器)：第6章 D-3 「栄養療法・食事療法を受ける患者の看護」(p.311～319)、D-5 「胃瘻・空腸瘻造設患者の看護」(p.329～332) 在宅看護論：第5章 C-4 「経管栄養」(p.214～226)
		e 在宅における安全管理と支援	成人看護学 [5] (消化器)：第6章 D-3 「栄養療法・食事療法を受ける患者の看護」(p.311～319)、D-5 「胃瘻・空腸瘻造設患者の看護」(p.329～332) 在宅看護論：第5章 C-4 「経管栄養」(p.214～226)
	F 中心静脈栄養法	a 対象者	成人看護学 [5] (消化器)：第6章 D-3 「栄養療法・食事療法を受ける患者の看護」(p.311～319) 在宅看護論：第5章 C-5-2 「在宅中心静脈栄養の適応条件」(p.227) 栄養学：第9章 B-2 「静脈栄養法」(p.188～189) 臨外看総：第2章 D-2-5 「退院後の在宅栄養管理」(p.104～105)、第9章 F-2-2 「在宅中心静脈栄養法」(p.377)
		b 栄養剤の注入方法	在宅看護論：第5章 C-5-3 「在宅中心静脈栄養を用いる療養者への在宅看護」(p.227～232)
		c 栄養評価	在宅看護論：第5章 C-5-3 「在宅中心静脈栄養を用いる療養者への在宅看護」(p.227～232) 栄養学：第7章 「栄養状態の評価・判定」(p.128～146)
		d 合併症の予防	在宅看護論：第5章 C-5-3 「在宅中心静脈栄養を用いる療養者への在宅看護」(p.227～232) 栄養学：第9章 E-2 「静脈栄養の合併症」(p.204)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		e 在宅における安全管理と支援	成人看護学 [5] (消化器) : 第 6 章 C-3-3 「中心静脈栄養法」 (p.306~307) 在宅看護論 : 第 5 章 C-5-3 「在宅中心静脈栄養を用いる療養者への在宅看護」 (p.227~232)
	G 褥瘡管理	a 褥瘡発生のリスクアセスメント・発生予防	在宅看護論 : 第 5 章 C-1-2 「褥瘡の予防」 (p.192~195)
		b 褥瘡のアセスメントと処置	成人看護学 [7] (脳・神経) : 第 6 章 B-13 「褥瘡の予防と看護」 (p.301~306) 成人看護学 [12] (皮膚) : 特論 「褥瘡患者の看護」 (p.245~266)
		c 除圧・体位交換に関する器具の種類と選択	在宅看護論 : 第 5 章 C-1-3 「褥瘡」 (p.191~199) 在宅看護論 : 第 5 章 C-1-3 「褥瘡」 (p.191~199)
		d 在宅における安全管理と支援	在宅看護論 : 第 5 章 C-1-3 「褥瘡」 (p.191~199)